令和2年度

熊野町農業委員会

議事録

第7回

熊野町農業委員会

令和2年度第7回 熊野町農業委員会

1. 開催日時 令和2年9月23日(水) 午前9時

2. 開催場所 役場3階 302・303会議室

3. 出席委員(10人)

委員	1番	庄賀 深雪
委員	2番	福垣内 信行
委員	3番	菅尾 寛治
委員	4番	井尻 隆雄
委員	5番	立花 宏保
委員	6番	木原 哲男
委員	7番	橋川 勝則
委員	8番	空田 忠
会長職務代理者	9番	原 恭博
会長	10番	中村 家隆

4. 農地利用最適化推進委員

委員	稲垣 寿計
----	-------

5. 議事録署名委員(2人)

委員	5番	立花 宏保
委員	6番	木原 哲男

6. 農業委員会事務局職員

事務局長	堀野 准
------	------

7. 熊野町職員

農林緑地課 主査	諏訪本 壮太
----------	--------

会議の概要

議長	<p>ただいまの出席委員は、10名です。熊野町農業委員会会議規則第6条の規定による定足数に達していますので、ただ今から令和2年度第7回熊野町農業委員会を開会します。</p> <p>はじめに、会議規則第13条の議事録署名者2名について、こちらから指名します。5番立花委員、6番木原委員を指名します。</p> <p>それでは、議事日程に従って審議に入ります。</p> <p>事務局より、議案の朗読をさせます。</p>
事務局	(議事日程 朗読)
議長	<p>日程第1、議案第18号「農地法第5条の規定による許可申請について」を議題とします。</p> <p>事務局から議案の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>議案第18号の農地法第5条の規定による許可申請について、ご説明いたします。</p> <p>この申請地につきましては、今年4月20日に開催された、第1回農業委員会の議案第1号として「熊野農業振興地域整備計画の一部変更について」により、熊野町の方から農業委員会に対し意見照会があったため、ご審議いただいた案件であります。</p> <p>農業振興地域の農用地として立地する農地につきましては、町が区域から除外した場合のみ農地転用の手続きを行うことができますが、この度は、ご審議頂いたのち、公告縦覧や異議申し立て、国や県との協議などの手続きを踏まえまして、今年7月31日に整備計画の一部を変更して、農業振興地域からの除外が完了したため、農地転用についてこの度、審議いただくこととなっております。</p> <p>場所は、配布させていただいております図面のとおり、熊野黒瀬トンネルから西に約300メートルに位置する深原地区の〇〇〇〇〇の西側に隣接する場所でございます。この度の申請内容としましては、こちらの譲渡人が耕作が困難となっている休耕中の田について、譲受人が町おこしのために〇〇〇〇〇を運営されており、隣接地には現在、〇〇〇〇〇を建築中でございますが、その駐車場としてご利用されたいということの転用と</p>

	<p>なります。</p> <p>申請内容を審査しましたが、計画では土地の整地を実施されますが、土砂流出や崩壊などに対する防止措置を行う必要はなく、周辺の農地や営農条件に支障を及ぼす恐れもないと認められることから、申請内容に問題はなく、事務局としましては許可相当であると判断しております。</p> <p>他法令の関係については、申請手続きは不要となっております。</p> <p>また、農地利用最適化推進委員の現地調査につきまして、会長さんと相談させていただき、4月に実施して頂き、ご説明頂いていることから今回は実施しないこととなりました。</p> <p>以上でございます。よろしくお願いいたします。</p>
議長	ありがとうございました。当案件について、何か質問はありませんか。
議場	(全員：質問なし)
議長	<p>質問がないようですので、お諮りします。</p> <p>議案第18号「農地法第5条の規定による許可申請について」、ご異議はありませんか。</p>
議場	(異議なし)
議長	<p>異議なしと認めます。</p> <p>よって、議案第18号「農地法第5条の規定による許可申請について」は原案どおり承認することに決定しました。</p> <p>続いて、議案第19号「農地法第5条の規定による許可申請について」を議題といたします。</p> <p>事務局から議案の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>議案第19号の農地法第5条の規定による許可申請について、ご説明いたします。</p> <p>議案第18号と同様に耕作が困難となり休耕中の田を〇〇〇〇〇や〇〇〇〇の駐車場にするための農地転用となっており、隣接地であるため、申請内容や被害防除措置計画の内容も同様となっております。</p> <p>議案18号と異なるのは、こちらは、農業振興地域の農用地区域の指定を受けていない農地、いわゆる白地であったため、あらかじめ農振除外の手続きを経る必要がなく、農地転用についてご審議いただくことが可能となっている点でございます。</p>

	<p>それから、議案18号のする隣接する土地ということで、同一案件とみなさせて頂き、本申請による現地調査は委員さんに行って頂かず、事務局で実施させて頂いております。</p> <p>周辺農地や営農条件に支障を及ぼす恐れも無いと認められることから、申請内容に問題は無く、許可相当であると判断しております。</p> <p>以上でございます。よろしく申し上げます。</p>
議長	ありがとうございました。当案件について、何か質問はありませんか。
議場	(全員：質問なし)
議長	<p>質問がないようですので、お諮りします。</p> <p>議案第19号「農地法第5条の規定による許可申請について」、ご異議はありませんか。</p>
議場	(全員：異議なし)
議長	<p>異議なしと認めます。</p> <p>よって、議案第19号「農地法第5条の規定による許可申請について」は原案どおり承認することに決定しました。</p> <p>続いて、議案第20号「相続税の納税猶予に関する適格者証明について」を議題といたします。</p> <p>事務局から議案の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>議案第20号の相続税の納税猶予に関する適格者証明願いについて、ご説明いたします。</p> <p>これは、租税特別法第70条の6第1項の規定による相続税の納税猶予に関する適格者証明願いについて審議させていただきます。</p> <p>参考用に農水省発出の資料をお配りしておりますが、簡単にご説明すると、農地を相続される場合、譲受後20年間営農を継続したものについては一定の相続税が免除されるものです。</p> <p>今回の案件については、被相続人と相続人の双方が必要条件を満たす必要があります。</p> <p>まず、「被相続人」の適用要件は、議案のつぎのページの中ほどにある「相続税納税猶予を受けるための要件」の①の死亡の日まで農業を営んでいた者に該当するかと思われます。昨年の利用状況調査においても被相続人は農業を行っていた実績もあることが分かっておりますので、死亡の日まで</p>

	<p>農業を営んでいた者として扱うことができるかと思えます。</p> <p>ここで、亡くなられた〇〇〇〇〇氏ですが、平成4年3月22日に相続をされ、平成4年9月22日に納税猶予申請をこの度と同じようにされています。</p> <p>そして、平成25年1月5日免除が確定し、海田税務署から農業委員会へも通知が届いております。</p> <p>〇〇〇〇〇氏は、令和2年1月8日に亡くなられ、その長男になられる〇〇〇〇〇さんが同様に申請をされています。</p> <p>次に、「相続人」の適用要件は資料右の①相続税の申告期限までに農業経営を開始し、その後、引き続き農業経営を行う者に該当します。</p> <p>本日追加でお配りしている写真は9月19日に撮影したのですが、写真のとおり、現在も農業経営をされており、すべての申請地番は、田として耕作されていることがお分かり頂けるものと思えます。</p> <p>これにより、相続人についても、適用要件を満たしております。</p> <p>以上から、申請内容に問題は無く、承認することが相当であると判断しております。</p> <p>相続税の納税猶予に関する適格者証明願いについては、以上です。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
議長	<p>ただいまの説明に関連して、農地利用最適化推進委員の調査結果の報告ならびに補足説明を求めます。稲垣委員、お願いします。</p>
稲垣委員	<p>相続税の納税猶予に関する適格者証明ということで、現状を見て参りました。〇〇〇〇〇さんは、田のすぐ近くの本宅へ引っ越され、現状もこの写真のとおり農業を営んでおられます。お父さんが亡くなられた後に継続して20年間農業を継続していくという意思確認は取れておりまして、事務局から説明がありましたとおり、納税猶予を受けるための要件を満たしていると考えられますので、問題は無いように思います。以上です。</p>
議長	<p>ありがとうございました。当案件について、何か質問はありませんか。</p>
原委員	<p>この写真は、いつ頃写されたのですか。</p>
事務局	<p>19日の土曜日になります。</p>
原委員	<p>これは壺枯れしとのの。</p>

事務局	はい。部分的にございました。
原委員	この方は、あと20年農業をしなければならないということですね。
事務局	はい、20年継続されたら相続税が免除されることになります。
原委員	お父さんが相続したのは、平成4年ですか。
事務局	はい、納税猶予の申請を平成4年にされておられます。
原委員	やはり、人間は20年余で代が代わるのだな。
事務局	申請者は、ちょうど64歳になられ、そういうタイミングなのかと思 います。
菅尾委員	この方は、相続税がかかる金額を超えているということですか。
事務局	こちらは市街化区域の農地ですし、不動産もたくさんお持ちのよう でしたので、そういうことから猶予の制度を利用されたいとのことでご相 談に来られたようです。
菅尾委員	1年くらいの間隔で税務署の調査があるのですか。
事務局	税務署による調査は分かりかねますが、農業委員会に対しては、3年 置きに照会があり、全部で6回あるはずです。
菅尾委員	ある方が実際、シートを敷いていつでも耕作できる状況ではあった が、耕作していなかったため、20年にあと1年満たないくらいで税務 署が調査に入り、税金を大分支払ったという話を聞いたことがある。
事務局	そのような農地は、農業委員会として、もし判断を求められた場合 は、管理はすれど作付けをしていない不作付け地であると考えられるた め農地としての判断をしたいと思います。 税務署は、違う観点があるのかもしれませんが、農業委員会に照会が あった場合は、農地としての判断をし、答えを出すと思います。
菅尾委員	実際、今、行っている利用状況調査でも緑色になっている。税務署が見 に来なければ良かったのだが。 シートを貼って管理をし、いつでも植えられる状態にあったわけです から。でも、それは効かなかったということですが。
事務局	少し、話題からそれるかもしれませんが、この制度を利用する場合は、 耕作をご自身で行う必要があります、病気等の理由でもない限り借地するこ とも出来ないこととなっています。そういう厳しい制度ですので、農地につ

	いても厳しい見方がされるのかもしれないですね。
菅尾委員	現に耕作をしていないじゃないかと税務署が判断したのでしょうか。
議長	質問がないようですので、お諮りします。 議案第20号「相続税の納税猶予に関する適格者証明について」、ご異議はありませんか。
議場	(全員：異議なし)
議長	異議なしと認めます。 よって、議案第20号「相続税の納税猶予に関する適格者証明について」は原案どおり承認することに決定しました。 次に、日程第4 報告第10号「農地法第5条第1項第6号の規定による届出について」事務局から報告をお願いします。
事務局	報告第10号について、ご説明いたします。市街化区域内の農地については、届出により転用することが認められております。 本件につきましては、8月中に農地転用届出を受理したものを報告として上げさせて頂いたもので、この度は、第5条の規定による届出が1件ありましたことを、ご報告します。 なお、本件については、8月3日付けで届出されたものであるため、今回の委員会でご報告させて頂くことに事務の誤りは無いのですが、現在取り組んで頂いている利用状況調査において、ご担当地区の委員さんから「農地である場所へ家屋が建築中で、当該場所の届出は未確認である」といった旨のご連絡を頂きました。 一筆単位で分かりにくい中で非常に精度の高い調査を実施頂いていると改めて感じた次第でございます。先ほども地図の事などで大変ご負担をおかけしており、大変申し訳ないのですが、引き続きよろしくお願いいたします。 説明については、以上です。
議長	ありがとうございました。 最後に今回は、「農業委員会の法令遵守の申し合わせ決議」がございましたので、事務局から説明をお願いします。
事務局	これまで、農業委員会の場や、各種研修会でも説明があったことと思い

	<p>ますが、他県において農業委員会による農地法違反等により逮捕者が出るなどの不祥事が発生しております。これは、農業委員会及び農地制度に対する国民の信頼を大きく傷つけるものであり、農業委員会組織は、農業者の公的な代表機関として、法令に則り適正に農地制度を運用し、農地利用の最適化を実現する責務を負っていることを改めて自覚するとともに、再発防止に取り組まなくてはならないということで、昨年からこのような背景を鑑みて、令和元年度全国農業委員会会長代表者集会で、各農業委員会において、農業委員会の法令遵守の申し合わせ決議を行うこととなり、令和2年度以降も毎年度1回程度実施するように全国農業会議所から依頼がありました。</p> <p>本町におきましては、お配りしている決議文をもって申し合わせさせて頂きたいと思っております。それでは、内容を読ませて頂きます。</p> <p>私たち農業委員、農地利用最適化推進委員は、農業者の公的な代表機関である農業委員会組織の一員として、法令に則り適正に農地制度を運用し、農地利用の最適化を実現する責務を負っている。</p> <p>特に、農地制度に基づく許認可に係る事務については、個人情報に接することも多く、公平・公正な運用はもちろんのこと、個人情報保護も徹底しなければならない。</p> <p>私たち農業委員、農地利用最適化推進委員は、高い倫理観を持ち、法令順守を徹底するため、下記事項についてここに申し合わせ、決議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 農業委員会が担っている職務と責任を改めて自覚し、法令に則り適正に農地制度を運用すること。特に、農業委員会法第31条の議事参与の制限、同第33条の議事録の公表を適切に実施して、農業委員会の議事の公正さを確保すること。 2. 農業委員、農地利用最適化推進委員としての高い倫理観を維持し、法令遵守を徹底するための研修等を実施すること。 <p>以上でございます。</p>
<p>議長</p>	<p>熊野町農業委員会として、法令順守に関する事項に関しまして、事務局が説明した事項について決議することについて、ご異議ありませんでしょうか。</p>
<p>議場</p>	<p>(全員：異議なし)</p>

議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上で本日の日程はすべて終了しました。</p> <p>次回の農業委員会は10月20日（火）午前9時から開催予定です。</p> <p>議案については10月12日以降に事務局から送付予定です。</p> <p>以上をもちまして、令和2年度第7回熊野町農業委員会を閉会します。</p>
----	---